

第52回「議員と語ろかい」報告書

(自治会公募型：No.1)

開催日	令和 8年7月27日 19時00分 ～ 20時30分		
開催場所	下有川切門自治公民館		
団体名	下有川切門自治公民館	参加人員	9人 (男 6人：女 3人)
出席議員	町田、野村、田中、渡邊理、塩井川、大坪、鈴木、仮屋		
役割分担	班 長（町田）副班長（鈴木）記録係（野村）		
テーマ及び具体的な内容	山間部に存在する自治公民館として整備すべき防災計画と活動		

意見交換での主な話題等	◆昔は健康づくり教室や料理教室を開催し人が集まっていたが、高齢化と少子化により行事への参加者が減っている。危険箇所などハード面は随時対応されているが、それ以上に高齢者同士の交流をどう保つかが大きな課題。 また、校区の児童数も減少しており地域による差が大きい。世代が地域内で回っていくことが活性化につながると考えるが、その糸口が見出しにくいのが現状である。参考になる事例があれば教えて欲しい。 ◇地域のひろば事業がある。 ◆補助をもらうには開催回数等で難しいと感じている。 ◇移動手段に困る高齢者への対応として、清水地区では住民有志がマイカーを使い病院送迎等を行う有償ボランティアを立ち上げ、社会福祉協議会の支援を受けて実施し喜ばれている。他地区にも同様の動きが広がっている。 また、向花地区では「自分だけで避難できるか」「近隣の要支援者を助けられるか」を確認するフローチャートを用いて、自助・共助の避難行動パターンを整理する取組を行っている。合わせて農地バンク制度の活用も提案。 ◆山林・農地は利用権設定や森林組合への委託で当面は管理できているが、将来的な担い手不足が深刻。空き農地の管理を市の農業委員会任せにするのではなく、次の担い手につなぐための市全体の窓口や仕組みを整備してほしい。 ◇後継者・担い手を地域内で見つけるモデル事業を市が2、3か所で試行中。まだ手探りの段階であり、結果が出るまでには時間を要する。 ◆Mワゴンは、歩けない高齢者の方には家まで来てくれないので課題と考えていたが、先ほどの有償ボランティアの件、避難計画のフローチャートは参考になった。 ◆自治会の会談番(回覧板)を通じた見守りが安否確認に役立っている事例を紹介。回覧が滞った際に一人暮らしの住民宅を訪ねたところ異変に気づけたこともある。手間はかかるが、こうした顔の見えるつながりが災害時の人命確保にもつながると考えている。 ◇大隅地区の事例として、店舗が撤退した集落で住民有志が直売所兼交流拠点を立ち上げ、健康相談の場としても機能している取組を紹介。地域資源を生かした住民主体の場づくりが大事だと思う。
-------------	---

◆霧島市全体として 20～30 年後を見据えた中山間地域の将来像の構想があればできる範囲で教えて欲しい。今後、病院や学校がなくなる時に何とかしてくれ、ではなく残った人間がどうにかしていいかざるを得ないと思えるが、どのような市を作っていこうとしているのか知りたい。

◇全国共通ではあるが、人口減少に伴い、都市計画では中心部への機能集約と周辺地域への支援という考え方が基本線。溝辺地区は空港周辺の商業地域と農業地域を軸とする位置付けとなっているが、大枠の構想という計画である。地域住民への具体的な将来像の共有が十分でない点は課題と認識している。

近隣の「かんまい保存会」など、地域資源を生かした若者主体の活動事例もあり、地域にある魅力ある素材を掘り起こし生かすことが今後の鍵になると感じている。

◆課題を明確にしてピンチをチャンスに変える事を模索していくのが大事だと思う。キーパーソンを議員さんなりでよろしいでしょうか。

◇キーパーソンというわけではないですが、使ってください。

◇誰がするという事でなく、動ける人ができることをどうやっていくのかが大事と考える。

意見交換での主な話題等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	テーマ「主要な防災・減災対策に関わる整備計画」 ◆防災計画の対象とすべき災害事象を地域として整理したい。溝辺・下有川地区で現実的に想定すべきは、大雨洪水による河川氾濫、ため池の決壊、崖崩れ等の土砂災害、道路寸断による孤立集落であり、地震・津波は当地区では想定しないこととした。市のハザードマップが示すため池決壊時の浸水想定区域や崖崩壊の被害想定区域を、地域としてどう受け止め防災計画に落とし込むべきか意見を求める。 ◇ため池対策や、道路寸断時に孤立が想定される集落への備えを事前に検討しておくことが重要。市の「出前講座」を活用し、地域の危険箇所について専門的な説明を受けることも一案。 ◆出前講座は以前に危機管理室から受けたことがあるが、内容が一般的な説明にとどまり、自分の地区の課題として受け止められるレベルではなかった。 ◆実際に地区内の河川は昨年８月の大雨で氾濫・護岸崩壊し、県内各地でも同様の被害が発生した。近年は１時間１００ミリ級の降雨が常態化しており、６０年前に整備された護岸の耐力を超えている。現状は崩れた箇所のみを復旧する対応にとどまり、抜本的な対策にはなっていない。 ◇県の地域振興局河川課へは現状復旧にとどまらない対策を要望しているが、当該河川は二級河川であり、市が単独で整備できる範囲には限界がある。 ◆自治公民館レベルで市に整備を求められる話ではないと理解しているが、現実には危険が生じている以上、今後の防災計画の中でどう位置づけるか引き続き検討していきたい。

意見交換での主な話題等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	◆地域内の具体的な危険箇所を写真で紹介した。 ①公民館裏の私有地の崖上に立つ杉が浸食で倒壊・崩落のおそれがあり、公民館を直撃しかねない。所有者は把握しているが伐採には重機と多額の費用を要し、森林組合からも「伐採で逆に崩れやすくなる」との指摘があり対応できていない。 ②赤線道沿いの危険木は所有者が特定できず、電線が近接し特殊な技術・費用を要するため放置状態。 ③高齢者がゲートボールに利用する道沿いにも同様の危険木があるが、これも所有者不明。 ④竹林の倒木による道路阻害は、交通支障として市(道路管理者)が対応する方向との情報が入った。 ⑤ある個人宅では、用水路の浸食による土手崩壊を所有者が自費で応急復旧した例もある。 ◆いずれも私有財産の管理責任の問題として、行政からは「個人情報のため所有者を教えられない」「私有地には手を出せない」との回答にとどまり、危険情報が所有者に伝わらず、地域としても改善の協力を申し出ることすらできない状況にある。危険情報を所有者・管理者に通知する仕組みと、個人による安全対策への補助制度等の整備等サポートしてほしい。